

1 a 元 来

b 過 大

c 装 備

2 ア 3 A わ B やみ C 知 D さ 4 「意」常 識 (完答)

5 イ 6 I 役割を II エネル III 効率的 (完答)

7 あ・か 8 潜在「ヨ」ン (完答)

9 (記述題) 10 自動評価

2 1 a 首 筋 b 服 用 c 反 論

2 ウ・エ (順不同・完答) 3 A か B つ C 腹

4 I ウ II ア III エ IV イ (完答) 5 エ 6 (記述題)

7 i 犬 ii 命 iii 血 (完答) 8 ア 9 (記述題)

10 動物の命も、人間と同じように尊い 11 イ

1 脳 神経回路の網の目の中に組み
込 まれてい、知覚がじかに行動
と リンクするよ う に プ ロ グ ラ ム さ
れ た 目 標 シ ス テ ム 。

(同意可)

2 供 血 犬 にな る こと で、怪 我 を 負 っ
て いる か ら ラ で も 終 生 大 切 に し て も
ら え る ソ ラ 。

(同意可)

9 殺 して きた 犬 たち に 許 し を こ う て
い る

(同意可)

配点	1	1	2
	9	13	18
その他	2	6	9
	4	14	56
	6	18	26

1 ① a 「元来」ははじめからその状態や性質であるさま。 b 「過大」は大きすぎるさま。 c 「装備」は機器や用具などを取りそろえること。

2 ①の直後の段落に「このような体験はないだろうか：われわれは：意識が行動の原因だと信じているが、それは本当だろうか」と書かれていることから、①には人々が「信じている」論理では説明できない内容がはいるとわかる。さらに、「たとえば：」と続いていく説明を読み進めていくと、行動が意識より先に起こることがあるということが書かれていることから、「行動↓意識」の流れになっていく選択肢を選ぶ。

3 A「にわか」は、否定的表現を伴って即座には、すぐにはという意味。 B「やみくも」は見通しもなく物事を行うこと。 C「知らず知らず」は無意識のうちに。 D「とっさ」はきわめて短い時間、瞬時。

4 「歴史的」は、ここでは歴史に残るほど重要な意味があるさまという意味で使われている。——線②の「これ」とは「非意識過程が果たす役割が次々に明らかにされてきた」ことであり、これが「歴史的な出来事」だといっていることをふまえて考えよう。

5 「意識が行動の原因である」というこれまでの考え方がひっくり返された形になっているのである。

③のあとを読み進めていくと、非意識的な「システム1」と意識的な「システム2」を誰もが持つっており、その2つは役割を分担していると書かれている。「システム1」が非意識的なものであるため、「考えて判断している」というアは不適当である。

6 ④の文の冒頭から、「問題」が起きた際に「システム1」と「システム2」がどうやってプラスの方向に持って行くのか、を答えればよいとわかる。その話題について書かれているのは「システム1とシステム2は：」の段落からなので、④の文と照らし合わせてさがそう。

7 「システム1」と「システム2」がそれぞれどういったものなのか述べられている「まず、われわれは誰でも2つのシステム、すなわち：」からはじまる段落とその次の段落を確認してから丁寧に考えていこう。「システム1」が「非意識的」、「システム2」が「意識的」という考え方である程度は解けるが、⑤は「必要な努力以上のことはやりたがらない」、⑥は「勤勉」という表現から考える必要がある。

8 「このように：プロセスは、今日、⑤」と総称されている。たとえば：「という書き方がされているので、答えは⑤よりあとにあるのではないかと見当をつけた。また、⑤の直前の「本人に無自覚のまま環境の刺激が直接行為を引き起こすプロセス」と、⑤の直後からの「たとえば：そのしくみは：つまり：」という流れのあとの「環境からの刺激が『引き金』になって非意識的に目標指向的な行動が生じるとい現象」とはほぼ同意になっている。同意表現は通読の際に結びつけておきたい。

9 もちろん直前の「意識を媒介せずに、知覚がじかに行動とリンクするようにプログラムされた目標システムが神経回路の網の目の中に組み込まれており」を指しているのだが、この「それ」は「目標システム」を指していることで、文末を「目標システム。」にしてまとめ直すという作業が必要である。安易に文末を「こと。」にして「：組み込まれていること。」としてはいけない。またまとめ直す際には係り受けがおかしくなっていないか確認しつつ進めよう。

10 二つめが「⑦」とは：「ではじまっているので、本文のここよりあとの部分で話題になっている内容を答えればよいとわかる。」

② 1 a 「首筋」の「筋」を「節」の字と確実に書き分けよう。 b 「服用」は薬をのむこと。「服」の五画めを「フ」のように書いてはいけない。 c 「反論」は「論」の右下の部分に「冊」と書いてはいけない。

2 聡里が一馬のアパートのドアを開けた際の「見憶えのある柴犬」という表現や、一馬の「（柴犬、）元気になったろ」という発言から、その見憶えのある柴犬の様子を見に行ったことが読み取れる。また、一馬が供血犬の話をし出す直前の場面に「：相談したいことがあると言われていたのだ」とあるので、ウも答えとして選べるだろう。

3 A「か細い」は細くて弱々しいさま。「か」は接頭語である。 B「ありつく」は仕事や食べ物など、求めていたものをやっ手に入れること。 C「腹を括る」はいかなる結果にもたじろがないよう心を決めること。

4 まず、イは「手の中の仔猫を胸に押し当てた」という表現から、【IV】に決まる。【I】は「相談したいことがある」とあらかじめ言われていたのだから、「首を傾げる」や「顔が強張っていく」という反応はおかしいのでウになる。また、意味すらわからない「初めて聞く言葉」に対する反応としてはアの「首を傾げる」が妥当だろう。

5 ——線②の直前の「ソラのことなんだけど：」からの一馬の発言をたどっていくと、「久恒先生は：供血犬にしたいって言うてる」「供血犬というのは：」「おれは、ありがたい話だと思う」「岸本さんの気持ちはわかる：」となっているので、ソラが供血犬になることに対して聡里が疑問に思うだろうと想定したうえで、説得しようとしていることが読み取れる。

6 ——線③の直後の「岸本さんの気持ちはわかる：」からはじまる一馬の発言に「でも供血犬になることでソラに居場所ができる。生き延びることができる。終生、ナナカマド動物病院で大切にしてくれる」とある。ここを答えのベースにすればよい。ただし、なぜソラは供血犬にならないと生き延びられないのかというところまで説明しないと不十分である。

7 「他のiのiiを救うためにiiiを差し出すこと」が「供血犬」の説明になっている。

8 直前の「なにもしなくても、一生大事にされる子もいる。いらなくなったからゴミのように捨てられる子もいる……」という発言を受けての「しかたがない。動物は、④から」という発言なので、人間の都合によってどう扱われるかが決まるといような内容の選択肢を選ぶ。

9 「動物の命を救うことで自分が⑤んだって」が直前の「自分が動物を保護しているのは罪滅ぼしだって」の言いかえになっている。「罪滅ぼし」とは、善行を積んで過去に犯した罪をつぐなうことなので、⑤には「過去に犯した罪をつぐなう」にあたる内容がはいることになる。「『犬』ということばを使って」という条件から、「過去に犯した罪Ⅱ犬を殺していたこと」と言いかえる必要がある。

10 ⑥の直前にある「いま一馬から聞いた言葉」という表現だけに注目して「そっか。じいさんが好きだから：」からはじまる発言に注目するのは軽率である。直後の「彼（一馬）の祖父が獣医師として長年働いた末に出した答え」という表現にも注目して、両方を満たす答えにしなければならぬ。

11 「イ」と「ウ」のあいだの場面に「ソラって、この子の名前ですか？」という聡里の発言があるので、この発言より前に④の文を戻す必要がある。「ア」に戻すと直前の「：ただ、骨折を長く放置していたなら：厳しいだろう」とうまくつながらぬ。